

平成29年度 第1号
平成29年7月21日発行

湖畔

北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

「まして 人生が旅ならば一故 藤田俊二先生を偲んで」

園長 三浦 辰也

7月29日 この日は僕にとっては特別な1日。

元北海道家庭学校寮長、青少年の自立を支える道南の会自立援助ホーム「ふくろうの家」開設にご尽力をされた 藤田俊二先生の命日である。

昭和60年1月。当時、美深育成園で児童指導員をしていた僕は、現宗谷総合振興局長坂本明彦氏と共に子どもたちと悪戦苦闘していた。上智大学留学生の韓国女性育成園で研修を積んでいた。彼女は、遠く異国の地から遙か「オホーツクにある教護院 家庭学校」に強い興味を抱いていた。離道する前にどうしても訪問したいという。即座に故 木下茂幸園長は僕たち2名に家庭学校に向かうよう命じ、手配してくれた。凜としばれた早朝、美深を発ち、名寄、興部、紋別、湧別と豪雪の中、遠軽に向かう。何度もウィンドウにこびり付いた氷の塊を除きながらの遠出である。学校の門をくぐり、鬱蒼とした森を抜けると「本館」が見えてくる。本館玄関左側にあった校長室に案内され、故 谷昌恒校長との面談。流暢な日本語で数々の質問に対し、校長は静かに丁寧に応える。

校内の案内をしてくださったのが藤田俊二先生である。本館の水道から細く水が流れている。室内であっても凍結の虞があるための予防策であると。初めてお目にかかったのに、夢を語る。あの先生は将来ここを離れ、大学で花島政三郎教授の様な道を歩むだろう。この寮の寮長は肝が据わっていてそれがいいんだ。平和山。あそこが敷地の中心です。そこへ向かいたいとお伝えすると、親しみのある道南訛りで山道は雪でふさがっており今日は難しいと。石上館でセツ子夫人が温かいお茶を入れてくださる。ホッとするのも束の間。美深に戻らねばならない。

鼻を吸ると鼻の穴がくつつく厳冬の候。

本館の前に腕を組んで仁王立ちし、厚いセーター姿で私たちを見送る姿。車内から振り返ると、先生を「芯」に大木が両脇を囲む。その姿が今も心に残る。僕たちを励ましてくれているようだ。檄を飛ばしているようだ。既に家庭学校を退職され、故郷大野町で過ごす先生に道立向陽学院の職員研修を依頼した。前日に大きな段ボールが6箱ほど届いた。日々の少年達の様子を書き綴った「生活ノート」である。時々、字が乱れている。両手にずっしりと手応えがあるのは、ノートの重みだけではない。

平成21年3月函館五島軒ホールで函館児童相談所長退職のささやかな会が催された。ステージに登壇した藤田先生は、「決して、絶対に、このステージの崖っぷちから、子どもたちを落としてはならない。頼みます。」嗚咽、鼻水を垂らしても拭くこともせず大木はそう語る。少年たちと共に歩んだ「人生の旅」に足跡を残し、後進に道を託した。

邂逅 人生の旅の途上 藤田先生はいつも寄り添ってくださる。

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）

「はじめまして」

自立支援課長 佐藤 孝幸

- ・みなさん、はじめまして。4月に着任した、さとう たかゆき と言います。
- ・子どもたちの「おはようございます」という元気な挨拶に迎えられ、踏み入れた学園には、児童のひとりひとりが自分の課題に向き合う真摯な姿と、それを支える分校や学園の職員のチームワークがありました。
- ・今回そのチームの一員として、暖かく受け入れていただきました。ありがとうございます。
- ・私も、100年を超える大沼学園の歩みの中で、大沼、小沼や駒ヶ岳の姿に身を委ね、私に何ができるかを自問しながら、子どもたちの笑顔が広がるような支援を考えて行きたいと思います。
- ・どうぞ、よろしくお祈いします。

「よろしくお祈いします」

主査（心理療法） 青山 康二

4月から内田主査の後任として働くことになりました青山と言います。

前任地は函館児童相談所ですが、今まで児童相談所の他に、旭川肢体不自由児総合療育センターや総合相談所、音更リハビリテーションセンターなど。計8カ所で勤務してきました。今回は児童自立支援施設ということで、また今までの職場と業務内容が異なります。まずは大沼学園の仕事に、生活に慣れることから始めているところです。

大沼学園に来て大変だと感じていることの1つにスポーツをするということがあります。体を動かすことは嫌いではないのですが、キャッチボールをすると投げ方を忘れており、卓球をすると児童の打球が目がついて行けませんでした。ここ数年椅子に座っている仕事をしており完全に運動不足で、更にアラフィフになり、運動神経や視力の衰えを強く痛感している次第です。せめて児童について行ける程度には頑張りたいと思っています。

「着任のあいさつ」

福祉指導員 佐藤 勇介

今年度より大沼学園に着任しました佐藤です。児童自立支援施設というものがいったいどういった施設なのか、どのような業務があるのかなど漠然としたイメージしか持たずにこの大沼学園に参りました。それでも、これまで社会人として数年働いてきた経験を活かして頑張ろうと意気込んで来たのはいいものの、見るものや体験することのすべてが初めての事ばかりで、正直なところ、とても不安でした。はたして児童と仲良くなることはできるのだろうか、どのように接したらいいのかと悩んでいましたが、私の不安とは裏腹に児童の方から私に明るく、そして積極的に接してくれました。また、仕事の面では、毎日が大変なことの連続ですが、たくさん先輩方のご支援を頂きながら頑張りたいと思っています。

ここでは先生と呼ばれていますが、右も左も分からない未熟者です。これからこの学園で児童や先生方と共に様々な体験・経験をさせていただき、一日でも早く一人前になれるよう、日々精進していきたいと思っています。これから皆さんにご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお祈いいたします。



よろしくお祈いします。

新任教諭の紹介（新しく鈴蘭谷分校に着任された先生）

「よかった？よかったんだろうか？」

七飯町立大沼小学校 鈴蘭谷分校
教諭 大日向 裕文

鈴蘭谷に赴任してきて、『よかった』というのと『よかったんだろうか』という相反する気持ちに揺れ動いています。『よかった』は、学園と分校が一体となって子どものことを考え、日々接しているという、素晴らしい環境で仕事ができていることです。新鮮な体験・感覚の中、学ぶことも多く、貴重な時間を過ごさせてもらっています。一方、どうすれば子どものためになるのか。何がいいのか。自分で『よかったんだろうか』こうした不安と悩みが常に心のどこかにあります。でも、前に進むしかないので、この「学園・分校チーム」の中で自分に出来ることをやっていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

「ピグマリオン効果」

七飯町立大沼中学校 鈴蘭谷分校
教諭 早坂 純一

3月まで、大沼トンネルを抜けて右折していましたが、4月からは直進することになりました。後方から猛スピードで迫り来る多くの車に恐怖を感じながら、分校の敷地に滑り込んでいます。わずか2年間のお付き合いではありますが、今後ともよろしくお願ひいたします。

さて、子どもたちと日々触れ合う中で、少しずつではありますが、お互いの気持ちが交流し合いとてもうれしく仕事を終えることができる日が増えてきました。これからもそういう日をどんどん増やして行きたいと思っています。

「僕は誉める 君の知らぬ 君について いくつでも」

中島みゆき 『瞬きもせず』より

「日々、研鑽」

七飯町立大沼中学校 鈴蘭谷分校
教諭 中西 和弘

大自然に囲まれた鈴蘭谷分校に着任し3ヶ月が過ぎました。教職に就き30年という節目の年にこの地に着任した事は、私の人生においても大きな転機となる予感を抱かせます。これまでは体育科の教師として生徒と接してきましたが、特別支援クラスを受け持つことになりゼロからのスタートとなりました。生徒達の生活を支える寮長・寮母さん、学園の先生方、そして、分校の教職員が生徒の健やかで健全な成長を願い、共通理解を図り協力・協働しながら行っているこの鈴蘭谷分校で、自分自身、試行錯誤しながら生徒達と向き合い、微力ではありますが懸命に取り組んでいきたいと思っています。

「わかる、できるよろこびを」

七飯町立大沼中学校 鈴蘭谷分校
教諭 南部谷 京子

こちらに赴任して3ヶ月が過ぎようとしています。野外の活動が多くありますが、残念ながら体質的に戦力になることはできず、周囲の先生方にいつもご配慮いただき、お世話になり感謝しております。また、様々な局面での生徒への対応など、何がベストなのか正解を探しても中々何が正解なのか難しいと感じることもありますが、他の先生方から学びながら対応していきたいと思っています。何もできませんが、できるだけ明るく笑顔で安らぎを与え、ユニバーサルデザイン・学習者ファーストを意識したどの子にもわかりやすい授業を提供できるように努力したいと思っています。



平成28年度卒業生激励会

福祉指導員 関口 聖人

平成28年度の卒業生激励会は、笑いあり、涙ありと卒業生も在校生も、どちらも心に残るものとなりました。

まず、各寮が日々練習を重ねた発表を披露しました。芝蘭寮は、全員がプロフェッショナルな動きと真剣な表情、見る物を思わず笑顔にするようなダンスを披露してくれました。蛍雪寮は、がくえんのような日々の出来事をフリップを使い、「かなしいときー！うれしいときー！」と素直に表現してくれました。芳泉寮は、オカリナ演奏でした。卒業ソングや往年の名曲など、おもわず聴き入ってしまう音色でした。それには、参加者からアンコールがかかるほどでした。晩翠寮は、一人一人がしっかりとチームワークを意識した組み体操を行いました。まさに圧巻であり、これまでの寮生活の仲間意識を体現したものとなりました。

その後、卒業生と在校生による挨拶、分校職員による生バンド演奏、全職員による合唱と続き、その場にいる全ての人々が一体となって、激励会を行いました。

卒業生は、今後どのような未来を歩んでいくのかはわかりません。しかし、我々職員は、常に激励の気持ちをもっていることを忘れないでほしい、そう思う会となりました。

芝蘭寮では、激励会まで色々な問題がありました。その度に寮のみんなで乗り越えてきました。そして、最後まで寮長先生や寮母先生は時間を惜しんでまで、僕たちに熱心にダンスを教えてくださいました。そして、激励会当日は芝蘭寮の名に恥じない最高のダンスをみんなに見てもらえたと思います。

中三 S

平成28年度卒業証書授与式

福祉専門員 熊本 淳

3月22日(水)、9名の児童が学園を巣立っていきました。彼らは、学園で何を学び、これからの人生にどのように活かしていくのでしょうか。それは、個々に異なり、今後のことは誰にもわかりません。しかし、卒業生がこれからの生活に期待を持たせるとともに、学園生活で支えてくれた職員や仲間達への感謝が伝わってくるような式典だったのではないのでしょうか。その晴れ姿を見るために、保護者の方々や児童相談所の先生、地元の中学校の先生が遠くから駆けつけていただきました。

卒業生が、大沼学園で寮長・寮母の支えと学園職員との関わりの中で、頑張って踏ん張って生活したことで成長し、その成長が保護者の方々や児童相談所、学校に伝わり、その身心ともに成長した卒業生を応援するべく卒業式へ足を運んでいただく。それは、卒業生ひとり一人にしても、とても嬉しいことですし、結果的にたくさんの方々から足を運んでいただくことで、卒業式の温かな雰囲気がつくられていると実感致します。ご来場の皆様には、大変感謝申し上げます。

ある場面で担当の不手際があり、申し訳ありませんでした。個人的には、卒業生の合唱で歌う緊張しつつも真剣な眼差しが印象的でした。

今後も、卒業生が安心して感動することができる卒業式になるよう、心がけていきたいと思います。最後になりますが…大沼学園生の人生に幸あれ！

僕は、あの時人生で初めての卒業式の主役をやりました。卒業式が、始まる前に僕は「小学校6年間早かったな～」と思いました。初めての卒業式は今まで以上に緊張しました。1番思い出に残った事は、何と言っても卒業証書を受け取る時です。そして、あの大先輩の人たちと歌った<栄光の架橋>も思い出に残ります。中学生になったからにはしっかりとしたいです。こういう思い出をいつまでも大切にしたいです。

中一 Y

